

【第3期学校経営に関する学校訪問より】

「何を学ぶのか（めあての提示）」「どのように学ぶのか（一人学び⇒共学び）」「何ができるようになるのか（児童のメタ認知＝ふりかえり）」

授業スタンダードの徹底  
要は「構造的な板書」

板書計画

めあての提示

教具⇒「めあてボード」「めあてカード」の活用  
特別支援教育の視点に立った配慮のある指導

単元を通して言語  
活動を提示

子どもの意欲がわく焦点化された「めあて」になっているか。めあてに対する明確な答えを教師が持っているか。

一時間の授業を構成するには単元通しての計画・目標を教師も児童も把握し「何を学ぶのか見通す」ことが大事。この学習を通して自分は何をするのか、何ができるようになるのか自覚する（「学びの自覚化」）ことで、学習の振り返りができ、達成感と次への意欲の喚起が期待できる。⇒自己肯定感⇒生徒指導・キャリア教育の視点をもった教科経営（別紙資料参照）

- キャリア教育の視点**
- \* 人間関係形成・社会形成力
  - \* 自己理解・自己管理
  - \* 課題対応能力
  - \* キャリアプランニング能力

- 生徒指導の三機能**
- \* 共感的な人間関係
  - \* 自己決定の場を与える
  - \* 自己存在感を与える

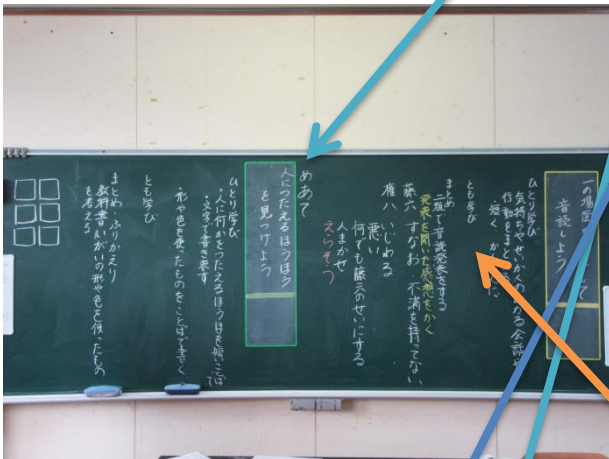
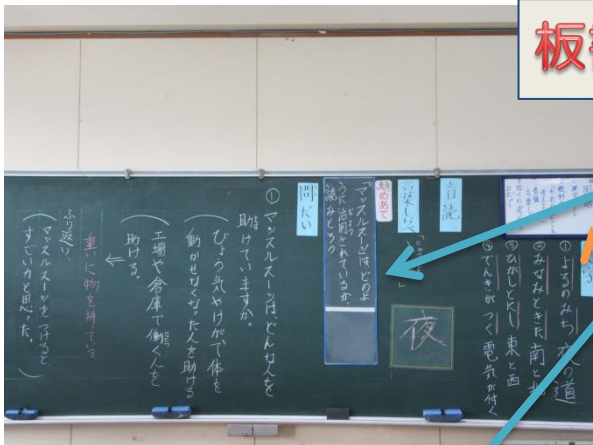
学び方の提示

子どもがわかりやすい提示になっているか。改良の余地はないのか。子どもの視点に立って考える。（児童理解）  
課題解決型の授業の場合は特に提示する必要がある。

まとめ

ねらいに対する答え、または子どもの考えが黒板に残っているか。子どもがこの一時間で何を学んだのか納得する（納得解）ことができているか。

ノート指導



全教職員が統一して実施することが高く評価できる。  
学習黒板に、教科とその内容が書かれていた。見通しをもつ授業とは細部にまで配慮が必要

## 一人学び



課題を全員が理解できるように、一人学びに入る前に全員が「何を考えればいいのか」「何をすればいいのか」理解しているか確認する。わからない場合は一人学びに入った後、スモールステップで教える。(特に配慮の必要な児童への手立て＝特別支援教育)

時間は5～7分以内。課題に応じては10分も可能。それ以上は、45分間の授業内容を考慮すると難しい。

### 例：説明文の授業

教師「〇〇について簡単にまとめよう」「はい、どうぞ」

児童「？」

簡単とは？どうやってまとめるの？ 課題の意味がわからず手段が見えてこない。

- 「要点」「要約」のポイントを教え事前に練習する。理解が困難な児童には加力学習・家庭学習で簡単な問題からすすめる。

「要点のポイント」 ①段落の中心となる語(言葉)や文  
②くり返し出てくる言葉

「要約のポイント」 ①要点をまとめること。  
②目的や必要に応じて、話や本、文章を短くまとめる。

教室に提示

## 共学び

子ども＝何を話すのか。話すことで友だちから何を学ぶのか。  
教師＝なぜ共学びが必要なのか。話すことで何を期待しているのか。

共学びのねらいを明確にもつ

## 発問・評価

○子どもがわかる発問⇒困っていたら自分の発問を振り返る

○子どもを育てる評価⇒人権教育の視点にたつて(教師の人権感覚・人権意識)

「どうしてなぜできないの?」「こんなこともわからないの?」

「だから〇〇さんは、だめなんだ。」

教科指導では特に×

一つのことで全人格を否定する言い方絶対にいけない。